

平成 16 年度地域づくり総合支援事業調査

平成 16 年度

権兵衛・姥神トンネル開通にかかる地域動向調査

木曾広域連合

はじめに

伊那(南箕輪村)と木曽を結ぶ国道 361 号は、その急峻な地形、標高 1,200m から 1,500m を通過する道路であり、冬季には雪による閉鎖を余儀なくされ、グリーンシーズンにおいても、落石等による通行止めも多く、幅員も 5m 足らずであることから、大型自動車の往来は不可能に近い状況であります。

現状では直線距離で約 20Km を約 1 時間あまりの時間を要する道路であります。先人の国に対する強い要望等により、平成 5 年度にトンネル化による「伊那木曽連絡道路」の事業化が決定し現在最終段階の工事が進んでおります。開削においてその地質のもろさや、大量な水の噴出により、当初より 3 年ほど完成が遅れている状況であります。平成 14 年には姥神峠トンネルが完成し、権兵衛トンネルも昨年貫通し、平成 17 年度中の供用開始が見込まれる状態となっております。

供用開始後は木曽地域と上伊那地域が約 30 分で結ばれるようになり、両地域の産業振興、文化交流、人材交流の道として期待されております。

本調査は、「伊那木曽連絡道路」の供用開始が木曽地域に与える影響について、交通、観光、生活の視点から分析を行い、木曽地域の将来像を検討することを目的としております。

平成 17 年 3 月
木曽広域連合長
田中 勝己